

令和5年秋期 富岡第一地区推進連絡会要旨

1 日時

令和5年10月28日(土) 16:00~17:30

2 場所

富岡ふれあいハウス

3 参加者

(地域側) 自治会・町内会、地区社会福祉協議会	22名
(支援チーム、その他行政側)	
区役所	8名
区社会福祉協議会、地域ケアプラザ	4名
小学校・中学校	2名
計	36名

司会進行 富岡第一地区社会福祉協議会 事務局長

【議題】

1 開会のあいさつ

富岡第一地区連合町内会長

2 金沢区長あいさつ

3 出席者紹介(自己紹介)

4 意見交換

(1) テーマの説明

- ①「地区の災害時の取組みについて」 地区連合町内会長
- ②「災害時の避難場所について」 地区社協会長

【概要】

- ①説明者である地区連長から、資料を元に以下のような話があった。
 - ・大枠の内容は資料の通り。
 - ・地震に限定し、地区の災害時の取組みについて説明。
 - ・発災時は、住民がお互いに顔見知りになれているかどうかも重要。
 - ・椿ヶ丘町内会は現在、安否確認訓練を実施しているが、今のような取り組みが出来上がるまで6年位かかった。ほかの町内会も実施する所が出ている。
 - ・防災倉庫には備蓄があるが、到底足りないと思われる。それぞれの単会での備えも重要であろう。

②説明者である地区社協会長から以下の話があった。

- ・以前配付した「地区社協だより13号」を元に説明。
- ・地区としていろいろな取組をしているが、毎年会長が変わる町内会もあり、情報の周知が課題。
- ・広域避難場所が以前は能見台中央公園、遠すぎたため、要望して今は富岡総合公園になっている。風水害時に開設される避難所も遠く、富岡小学校が開設されたとしても、住宅地より低い位置に立地していて不安である。そこで風水害時の一時待機所として富岡ふれあいハウスの活用を開始した。
- ・ふれあいハウスの鍵は各単会長が持っているが、なぜ鍵が配られているのか伝わっていない単会長も多い。
- ・世帯数の多い単会は良いが、規模の小さい単会もある。皆で考えながら地区の活動を進めていきたい。
- ・会館も築年数がたっていることも踏まえ、今後補修等も検討していきたい。

(2) 意見交換

①・②の説明を踏まえ、防災についてそれぞれが思っていることを、一人3分程度で話してもらおう。

【概要】

主に以下のような意見があった。

- ・いざという時の備えのため、安否確認の訓練の実施や体制づくり、情報の周知が大切と考える町内会が多かった。
- ・防災情報の共有の仕方が課題だと考えている町内会があった。
- ・高齢者や障害のある方など、要援護者の対応は重要だが、一方自治会町内会の役員も高齢化していて課題だと考える町内会があった。
- ・坂、階段等の地形により避難場所への移動を困難と感じる町内会が複数あった。
- ・防災対策が大きな課題の一つであることから、情報の提供と平時からの備えを目的として今年度、自治会で独自に防災カードを作成し、会員に配布した。

5 閉会のあいさつ

富岡第一地区社会福祉協議会会長